

NEWS RELEASE

2026.04.27

コーポレート PPA 25MW の追加契約により 阪急電鉄の鉄道用電力における再エネ活用をさらに拡大 鉄道用電力全体の 16.7%、昼間時間帯では使用電力の最大 60% を再エネ化 — 関西の鉄道事業者で最大級 —

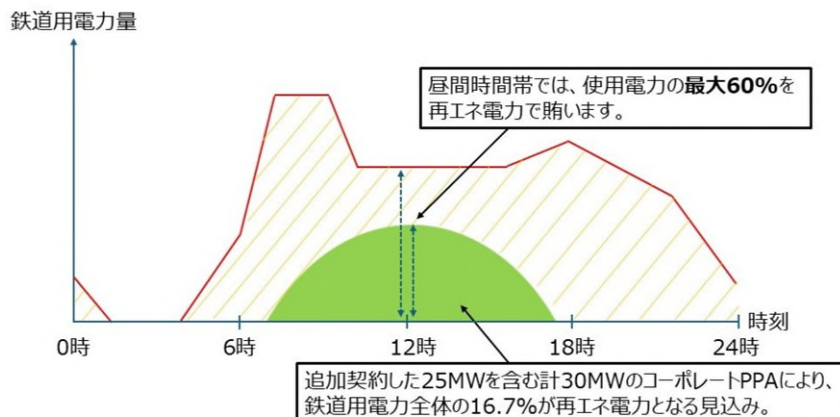
阪急電鉄では、本日鉄道用電力においてコーポレート PPA^{※1} を 25MW 分追加契約しました。これにより、2025 年 4 月に受電を開始したコーポレート PPA 5MW 分と合わせて合計 30MW のコーポレート PPA を契約したこととなります。今回の追加契約は関西電力との間で締結したもので、Sun Trinity 合同会社および丸紅新電力株式会社を発電事業者とし、新たな太陽光発電設備の開発・運営により発電される電力を活用します。

本追加契約における全電源の開発が完了する 2029 年度以降には、コーポレート PPA による総発電量が年間約 5,200 万 kWh となる見込みです。これは阪急電鉄の鉄道事業に使用する電力全体の 16.7% に相当します。また、昼間時間帯においては、最大で 1 時間あたり 28,000kW の発電量が見込まれており、これは同時間帯における使用電力の 60% を賅う規模です。なお、本追加契約の実施により、新たに削減される CO₂ 排出量は年間約 18,000 トンで、一般家庭の年間 CO₂ 排出量に換算すると約 7,300 世帯分に相当します。

当社は、本取組を通じて新たな太陽光発電設備の導入を進め、今後も環境価値の創出と脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※1 コーポレート PPA について

電力の需要家が、需要地から離れた場所（オフサイト）にある太陽光発電設備から発電事業者と小売電力事業者を介して電力の供給を受ける、長期・固定価格での電力供給契約。PPA は、「Power Purchase Agreement」（電力供給契約）の略。

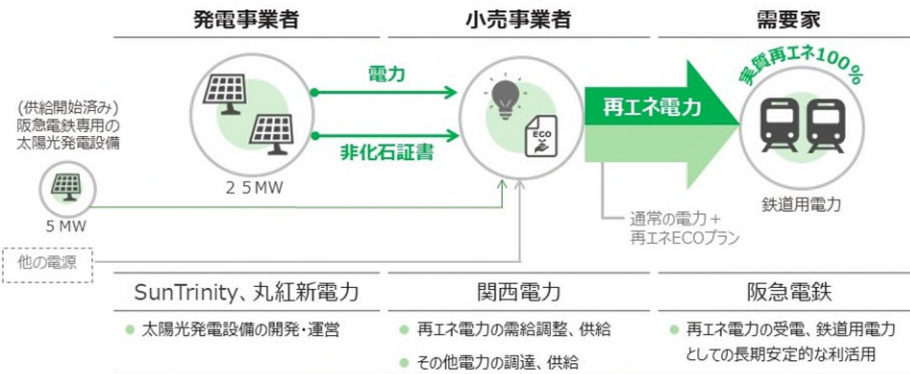


鉄道用電力量の1日の使用状況とコーポレート PPA の受電予定（イメージ）



●本追加契約の概要

発電事業者	Sun Trinity合同会社、丸紅新電力株式会社
小売事業者	関西電力株式会社
需要家 (用途)	阪急電鉄株式会社 (鉄道用電力)
発電出力	約 25,000 kW
供給開始時期	2026年度(予定)



●「全線カーボンニュートラル運行」を実現する仕組み

今般追加契約したコーポレート PPA を含む再生可能エネルギー由来電力および、摂津市駅・西宮北口駅・正雀工場・2026年3月末から稼働を開始した蛍池駅に設置している太陽光発電設備で発電する電力の使用に加え、関西電力が提供する再エネ ECO プラン^{※2}を活用することで、CO₂排出量を実質的にゼロとする「全線カーボンニュートラル運行」を実現しています。

※2 再エネ ECO プランについて

関西電力が提供する非化石証書(再生可能エネルギー由来)の持つ環境価値を付加したCO₂フリーの電気料金メニュー。

以上

【ご参考】2024年8月7日に発出したニュースリリース

『関西初！阪急・阪神の鉄道全線においてカーボンニュートラル運行を開始
～まち全体の環境負荷をさらに低減し、脱炭素社会の実現に貢献します！～』

<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/release/docs/f00f568a9d6f9581dfcc2b090476d202bd176fc8.pdf>

(参考) 脱炭素社会実現に向けた鉄道の環境優位性の理解促進について

一般社団法人日本民営鉄道協会とJRグループ各社では、日本のカーボンニュートラルの実現に向けて、相対的に低炭素な輸送モードである鉄道のさらなる利用促進(モーダルシフト)をめざすとともに、鉄道の環境優位性に対する社会的な理解促進のため、共通ロゴマークとスローガンを定め、鉄道業界一丸でPRに取り組んでいます。

〈詳細ページ〉 <https://www.mintetsu.or.jp/association/news/2023/22402.html>



【ニュースリリース配付先】 青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、国土交通記者会